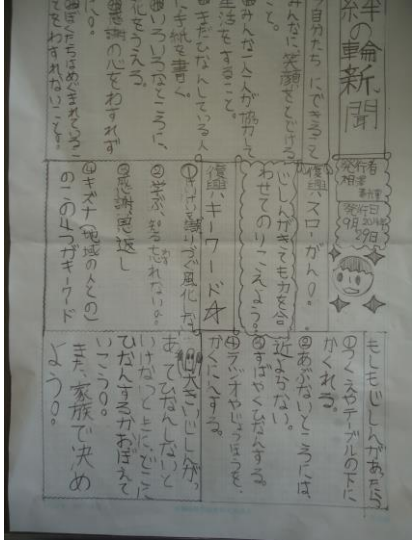
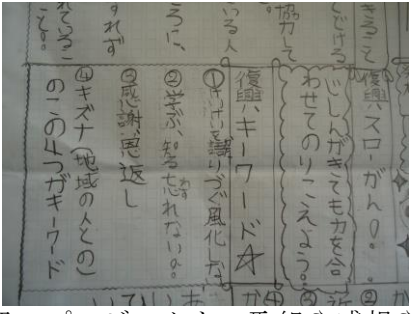


学校名 [南光台東小学校] 氏名 [斎藤 栄子] 学校 [4・5・6] 年版 単元名 [東日本大震災発生] P4~7 教科・領域名 [学級活動] [時間 60分]	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災時の様子を知る。 これから自分たちの生活にどんなことが大切かを考える。 学級で取り組めることを考え、実行してする気持ちを育てる。 <p>1 東日本大震災のとき、どんなことがあったかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震、避難所などの様子の DVD を見せる。 防災副読本の写真を見せて、南光台東地区の様子や仙台市全体の様子を教える。 <p>3月11日のことでどんなことを覚えていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園のお別れ会だった。 靴箱の靴がみんな外に落ちていた。 お母さんが迎えに来てくれて安心した。 <p>2 写真を見て感じたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ仙台でも被害の大きさに違いがある。 体育館で一緒に勉強するのは大変そう。 みんな助け合いながら頑張っているんだ。 地震を経験していないから気持ちは分からないけれど、かわいそうだ。 <p>3 「復興プロジェクト」について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 鶴を折ること。 「希望のみち」を歌うこと。 <p>4 4年2組の復興プロジェクトを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級目標を生かす 「えがお！前にすすめ！こころひとつに4の2」から、「えがお、前にすすめプロジェクト」と名付け、活動していくことを決めた。 ○ 学級新聞作り ○ 給食全部食べよう。 ○ 花を植える。 ○ 復興に関する文字を書き、教室にはる。 	<p>「復興プロジェクト」という言葉が4年生の児童には身近でない。言葉として聞いていても実際にどんなことをするのか、しているのか明確ではない。学級の中での「復興プロジェクト」を考えさせ、みんなで実行することが大切なことを教えたい。</p>  <p>持ち回りで書くことになった学級新聞。学級の取組やみんなで頑張ることなどお知らせします。</p>  <p>学級のプロジェクトの取組や感想や家の人の声などをのせる。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵や手紙を書いて励ます。 ○ 近所の人と仲良くする。 ○ 学級みんなで協力して生活する。 ○ 自分たちで身を守る勉強をする。 ○ みんなの中に「希望」を持つ活動をする。 <p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これからどんな災害に遭うか分からない。どんな力を付けて備えることが大切なのだろう。 ○ 自分で身を守る方法。 ○ 自分自身のことをしっかりできるようになる力。 ○ 他の人も考えられる。 ○ 助け合える。 ○ みんなと自分 <p>学級目標「笑顔、前に進め、心ひとつに」と一緒に小さな復興活動ができれば良いと思っている。日常生活で大切なことが、いざというときに役立つことを児童に伝えたい。</p>	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「復興プロジェクト」をしっかりと意識させることが大切だと感じた。どんな考えでどんな活動をしているのか。自分たちができる活動は何かなど、高学年の準備をしている4年生に、「自分たちの考え」を大切にさせ、行動できる児童を育てたい。 ・ 震災について知っていることを伝えよう。4年生の児童は東日本大震災のときは幼稚園の年長。記憶が様々である。そこで、無理のない範囲で静かに思い出し、あの日起こった出来事を知らせることが大切である。配慮を忘れずに行う。 ・ 広く物事を考えさせることも大切であるが、小さな社会でできることに取り組ませることが重要である。 ・ 今日のプロジェクトというコーナーができて各係などが「みんなで昼休みに外でドッチボールします」などと呼びかけて活動している。普段の係活動と行っていることは変わらない。しかし、地震を忘れないとか防災について学ぶとか少し考えを入れるだけで、いつでも防災についての意識ができる。 ・ 震災で家族と離れ離れになったおばあさんに葉書や絵を送って応援するプロジェクトも予定されている。
---	--